



OB・OG紹介 — 卒業生の現在 —



高橋正弥さん

国立病院機構 関東信越グループ
渋川医療センター 管理栄養士
山形県立高畠高等学校卒業→新潟医療福祉大学
健康科学部健康栄養学科卒業→国立病院機構
関東信越グループ西新潟中央病院管理栄養士→
国立病院機構関東信越グループ渋川医療セン
ター管理栄養士

現在のお仕事について教えてください

入院生活において、「食事」は唯一の楽しみであると思います。生活習慣病にかかって来る方、抗がん剤の治療を行う方。様々な状態の方が病院に来ます。中には口から食事ができない方もいますが、栄養を摂らずに生きる方はいません。どんな状態であっても、その人の「食」を支えるのが我々管理栄養士の役目だと思います。また、「食」を通じていろんな方と「繋がる」ことのできる職だと考えています。私は食を通じて医師や看護師、コ・メディカルスタッフと連携し仕事をするを大切にしています。他職種と働くには多くの知識や技術が必要となります。日々成長が必要です。毎日0.1以上の成長して「人の人生に貢献できる管理栄養士になる」ことが私の夢です。

高校生の頃、どんなことを考えて過ごしていましたか？

私は小学校からずっと野球をしていたため、高校時代は野球をすることで必死でした。

管理栄養士になった理由はなんですか？

野球をやっていた際に、合宿で「とにかく食べる」と言われてました。内容はおかず少しと丼5杯のご飯を食べることがノルマでした。私はその現状がとても苦しくて、「本当にこんなもので強くなれるのか？正しいのか？」という疑問が浮かびました。それから正しく食を導ける人になれるように栄養学を学びたいと思ったことがきっかけです。

大学時代にやっていたことはなんですか？

大学時代で印象に残っていることは2つあります。1つは学年のリーダーのような役割を担っていたことです。もともと人の上に立つのは得意でなかったのですが、男子が少ない学科であったため男子がしっかりしないとという思いと「男子がしっかりしている学年は良い学年」と学科長に言われたことを真摯に受け止めていたことがあり、リーダーになるために本を読んだりし、みんなから認められるリーダー目指しました。メンバーにも恵まれ、大変良い学年であったと感じています。その時培ったことは社会人になってからも生きています。2つ目は「栄養サポート部」を創部し初代部長に就任したことです。大学4年生の時、臨地実習は終わっていましたが、さらに現場を知りたいという思いから、農家直売場のお惣菜コーナーや大学生のスポーツチームの栄養サポートなど、自主的に実習へ行かせていただきました。自分と同じように思い、学びの場を求めている人が他にもいるのではないかと、自分がした経験を後輩たちにもしてほしいという思いで、自由にやりたいことを挑戦できる場として「栄養サポート部」を立ち上げました。この時学んだことは、人との繋がりや出会いが重要であるということ。さらに「食」には繋がりを築くことができる力があるということです。この経験は今でも生きており、新しいことに積極的に取り組むことや、様々な人との繋がりを大切に生きています。大学時代は学んだ者勝ちだと思います。やる気と、一歩踏み出す勇気があれば、できないことはないのだと学びました。

臨地実習ではどこに行きましたか？

大学では臨床栄養学実習として県内の総合病院、給食経営管理論実習として新潟市内の小学校、公衆栄養学実習として新潟県内の保健所、栄養教諭免許を取得するための教育実習として新潟市内の小学校に行きました。

最も印象に残っている臨地実習先はどこでしたか？

大形小学校での「食品ロス」についての授業を行った後の、給食を残さず食べようとする子供たちが印象的です。また、自主的に行かせてもらった、社会人ボートチームの合宿の食事提供も大変印象に残っており、競技や選手の状態を加味した献立作成から、材料の買い出し、調理、提供を行い、料理の感想を聞いたり、練習や試合をしているところを見ること。学生でありながら、プロの管理栄養士が行っていることを体験できたことは今でも財産になっています。

その実習先での活動は現在のお仕事につながっていますか？

繋がっていると感じています。対象をみて、対象にあった介入を行うことの大切さや調理技術の重要性は今でも意識して日々研鑽を積んでいます。

「新潟医療福祉大学でよかった」と思うことはなんですか？

素晴らしい先生方に恵まれ、新しいことや、やりたいことにチャレンジできたこと。プロの管理栄養士や、プロのアスリートとの関わりを築けたこと。自分のやりたいことや思いに賛同してくれる仲間に出会えたことです。

